

# 卒業生のひとこと

永田 俊文 様

## 学園での学び～これまでを振り返って～

放送大学学園がなかったら、自分の人生はどうなっていたらと思う時があります。

当該学園における学びのはじまりは、教員免許状（専修）取得のための科目履修でした。34歳だったと思います（現在56歳）。免許取得後は認定心理士の資格取得のために科目履修生として学びを継続し、心理資格の取得後は、リカレント教育の一環として全科履修生（発達と教育）に所属して学部を卒業しました。そして、そのまま大学院修士課程（教育プログラム）に入学し、現学長の岩永雅也先生のご指導のもと、2年後に学校教育相談に関する研究で修士課程を修了しました。当時は子供が生まれたばかりで大変だったことが今懐かしく思い出されます。

さらに、教育プログラムを修了した3年後、再度修士課程（人文学プログラム）に入学して、現特任教授の魚住孝志先生に指示を仰ぎ、作家の故遠藤周作氏に関する研究で2度目の大学院を修了しました。この時は、上の子が5歳、下の子が3歳と1歳だったので、仕事と家庭を両立させながら学ぶ大変さは前回の比ではなかったはずですが、それほど苦しむこともなく、楽しく学べたように記憶しています。学園での学びがわが身と一体となり、それなしでは自身のアイデンティティーを保てないくらい大切なものになっていたのかもしれない。

そして、現在は、卒業することではなく、学習を通して様々に見識を広げ、そして、それを深めるために学園に在籍しています。今回はちょっとした勘違いから在籍年限2年を残して卒業することになってしまいましたが、全科履修生として継続入学して今後も学びを続けるつもりです。

生涯学習の大切さを理解する方々と学びを共にできることをいつも誇りに思っています。また、学びをサポートしてくださる職員の方々には深く感謝しております。今後、どこかでお目にかかることもあるかと思いますが、その節は、どうぞよろしくお願いいたします。